

● 王华伟 曹亚辉 主编

日本社会与文化

にほんしゃかいとぶんか



中国海洋大学出版社

王华伟 曹亚辉 主编

中国海洋大学教材建设基金资助

日本社会与文化

にほんしゃかいとぶんか

青岛·中国海洋大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日本社会与文化: 日文 / 王华伟, 曹亚辉主编. —青岛: 中国海洋大学出版社, 2008.6

ISBN 978-7-81067-988-6

I. 日… II. ①王…②曹… III. ①日语—高等学校—教材 ②日本—概况—高等学校—教材 IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2007)第 021146 号

出版发行 中国海洋大学出版社
社 址 青岛市香港东路 23 号 邮 编 266071
网 址 <http://www.ouc-press.com>
订购电话 0532-82032573(传真)
责任编辑 何 结 电 话 0532-85901087
印 制 淄博恒业印务有限公司
版 次 2008 年 6 月第 1 版
印 次 2008 年 6 月第 1 次印刷
成品尺寸 144mm×215mm 1/32
印 张 17.5
字 数 460 千字
定 价 29.80 元

日本社会与文化

主 编 王华伟 曹亚辉

编 者 (以姓氏笔画为序)

万 礼 王 南 王伟军

邓传俊 李 晨 李锦淑

余逸文 刘绍磊 刘笑非

张云驹 张利民 韩 晓

目次

第一部 地理・概貌

第1章 日本の国土概況	1
-------------	---

第二部 歴史・文化

第1章 原始時代	(78)
第一節 日本人の祖先	(78)
第二節 縄文文化の時代	(79)
第2章 古代	(81)
第一節 弥生時代	(81)
第二節 国土の統一	(82)
第三節 伝わる大陸の文化	(84)
第四節 律令制国家の形成	(85)
第五節 遣唐使と天平文化	(87)
第六節 貴族の政治と文化	(88)
第七節 武士のおこり	(90)
第3章 中世	(92)
第一節 武家政治の始まり	(92)
第二節 武家政治の移り変わり	(96)
第三節 幕藩体制の成立	(100)
第四節 幕藩体制の動揺	(105)
第4章 近代	(108)
第一節 明治維新	(108)
第二節 自由民権運動と立憲政治の始まり	(112)
第三節 中国・朝鮮に対する侵略戦争	(113)
第四節 日本資本主義の発達	(115)
第五節 明治時代の文化	(116)

第5章 第一次世界大戦と日本	(118)
第一節 列強の対立と第一次世界大戦	(118)
第二節 日本をめぐる大戦後の世界	(119)
第三節 社会運動と政党政治	(120)
第四節 大正の文化	(121)
第6章 第二次世界大戦と日本	(122)
第一節 日本をおそう不景気	(122)
第二節 中国東北への侵略とファシズムの台頭	(123)
第三節 中国への侵略戦争と戦時体制の確立	(125)
第四節 第二次世界大戦と日本	(126)
第7章 第二次世界大戦後の日本	(128)
第一節 敗戦当初の日本	(128)
第二節 日本の復興と国際復帰	(131)
第8章 55年体制と経済成長	(134)
第一節 55年体制	(134)
第二節 経済の高度成長	(135)
第三節 70年代以後の日本	(137)
第四節 現代の世界と日本	(138)

第三部 政治体制

第1章 天皇	(144)
第一節 天皇の称号	(144)
第二節 天皇の皇位継承	(148)

第三節	憲法における天皇		(148)
第四節	天皇家		(151)
第五節	菊花紋章		(152)
第 2 章	国旗・国章・国歌		(153)
第一節	国旗		(153)
第二節	国章		(158)
第三節	国歌		(159)
第 3 章	国会		(163)
第 4 章	内閣		(165)
第一節	内閣の地位		(165)
第二節	議員内閣制		(166)
第三節	内閣のしくみ		(166)
第四節	内閣の仕事		(167)
第五節	総理大臣の権限		(167)
第 5 章	司法		(168)
第一節	最高裁判所		(168)
第二節	下級裁判所		(169)
第 6 章	公務員		(170)
第一節	公務員の種類		(170)
第二節	資格任用制		(171)
第三節	公務員の義務と権利		(172)
第 7 章	地方の政治		(173)
第一節	民主政治と地方自治		(173)

第二節	地方公共団体のしくみ	(174)
第三節	住民の権利	(174)
第8章	選挙	(175)
第一節	政治参加	(175)
第二節	選挙	(175)
第三節	代表制	(176)
第四節	選挙の特徴	(176)
第9章	政党	(178)
第一節	与党と野党	(178)
第二節	日本の政党	(179)
第10章	自衛隊	(186)
第一節	自衛隊の歴史	(187)
第二節	自衛隊の構成	(188)
第三節	規模と能力	(191)
第四節	各自衛隊の気質について	(192)
第五節	自衛官の階級	(193)
第六節	防衛交流	(195)
第七節	自衛隊の活動	(197)
第八節	自衛隊の所有兵器	(203)
第九節	自衛隊を巡る論争	(204)

第四部 経済

第1章	概要	(212)
第一節	歴史	(212)

第二節	天然資源	(213)
第三節	産業	(214)
第四節	貿易	(214)
第五節	金融	(215)
第2章	日本經濟史	(216)
第一節	古代日本の經濟	(216)
第二節	中世日本の經濟	(217)
第三節	江戸時代の經濟	(217)
第四節	近代日本の經濟	(218)
第五節	戦後日本の經濟	(220)
第六節	長期不況と現在	(221)
第3章	各産業の概況	(222)
第一節	農業	(222)
第二節	林業	(223)
第三節	漁業	(224)
第四節	鉱業	(224)
第五節	製造業	(225)
第六節	機械工業	(226)
第七節	建設業	(227)
第八節	金融業	(228)
第九節	不動産業	(229)
第十節	観光業	(229)
第十一節	卸売業	(230)
第十二節	小売業	(231)
第十三節	運輸業	(232)
第十四節	サービス業	(233)

第 4 章 産業別就業者構成	(236)
第一節 第一次産業	(236)
第二節 第二次産業	(237)
第三節 第三次産業	(238)
第 5 章 現在抱える問題と展望	(240)
第一節 産業空洞化	(240)
第二節 金融機能の低下	(240)
第三節 起業	(241)
第四節 国際競争力低下の危険性	(241)
第五節 所得格差	(242)
第六節 首都の過密と地方の過疎	(242)
第七節 経済成長率	(244)
第八節 国民一人当たり GDP の下落	(244)
第九節 家計貯蓄率の急速な低下	(245)
第十節 公的債務の増大	(246)
第十一節 雇用・労働環境	(246)

第五部 社会・生活

第 1 章 日本と日本人	(250)
第一節 日本という国名	(250)
第二節 日本人	(252)
第三節 日本神話	(254)
第四節 日本人の自然観	(256)
第五節 日本人の勤労意識	(257)

第六節	日本人の娛樂觀	(258)
第七節	日本人の美意識	(260)
第八節	日本人の死生觀	(261)
第九節	日本人の名字	(269)
第2章	生活・風習	(278)
第一節	衣	(278)
第二節	食	(296)
第三節	住	(317)
第四節	通過儀禮	(326)
第五節	慣習	(337)
第六節	仕事	(357)
第3章	家庭生活	(363)
第一節	暮らし	(363)
第二節	家庭	(367)
第三節	家族の風景	(368)
第四節	高齢化社会における「老い」と家族	(369)
第五節	家計	(370)
第4章	社会生活	(373)
第一節	消費生活	(373)
第二節	貨幣	(375)
第三節	社会保障制度	(378)
第四節	治安	(380)
第五節	公害問題	(381)

第5章 公共施設	(384)
第一節 自動販売機	(384)
第二節 交通機関	(386)
第三節 郵便局	(387)
第四節 電話・FAX	(388)
第五節 金融機関	(390)
第六節 宿泊施設	(391)
第七節 医療機関・健康	(392)
第八節 税金の仕組み	(393)
第九節 文化施設	(394)
第6章 行事・祭事	(396)
第一節 年中行事	(396)
第二節 国民の祝日	(406)
第7章 娯楽	(419)
第一節 遊び	(419)
第二節 ギャンブル	(431)
第三節 マスメディア	(435)
第四節 マンガ	(442)
第五節 アニメの歴史	(445)
第六節 カラオケの歴史	(452)
第8章 芸術・芸能	(454)
第一節 諸芸	(454)
第二節 武道・武術	(460)
第三節 演劇・舞踊	(474)
第四節 寄席芸	(484)
第五節 日本画	(489)

第9章 宗教	(496)
第一節 神道	(497)
第二節 仏教	(500)
第三節 キリスト教	(501)
第10章 教育	(503)
第一節 奈良・平安時代の教育	(504)
第二節 鎌倉から室町時代の教育	(505)
第三節 江戸時代の教育	(506)
第四節 明治時代以後の教育	(508)
第五節 戦後の教育	(508)
第六節 学校数・在学者数・教員数	(509)
付録	(510)
一 行政区画表	(510)
二 日本の主な山及び火山	(512)
三 日本の主な川	(512)
四 日本の内閣総理大臣	(512)
五 日本人のノーベル賞受賞者	(516)
六 日本の県花・県鳥・県木	(518)
七 幕府歴代将軍	(519)
八 歴代天皇一覧	(520)
九 歴代横綱一覧	(525)
十 日中共同声明	(526)
十一 日本の歴史年表	(529)
主要参考文献	(539)
后記	(541)

第一部

皇國土國の本日

置立の本目 前・策

地理・概貌

第一部 地理・概貌



第1章

日本の国土概況

第一節 日本の位置

日本はアジア大陸の東にある島国で、四つの大きな島とその他の島からなる。四つの大きな島は北から北海道・本州・四国・九州と順に並んでいる。

日本海を挟んでロシア、北朝鮮、韓国と隣り合っている。東シナ海を挟んでは中国および中国台湾と隣り合っている。また、南側で太平洋(フィリピン海)を隔てて米領北マリアナ諸島と隣り合っている。

日本の周辺は全て海であり、島国である。そのため他国と陸上において接していない。周辺は海であるが、朝鮮半島やサハラが日本本土から数十キロという比較的近い位置にある。

最東端：東京都 南鳥島

最西端：沖縄県 与那国島西崎

最南端：東京都 沖ノ鳥島

最北端：北海道 択捉島カモイワッカ岬

北方領土を除く最北端は北海道稚内市弁天島(宗谷岬)である。

ロシア占領下で帰属が微妙な千島列島阿頼度島最北埼を最北端とする意見もある。図1は日本列島の地図である。



図1 日本列島